

令和4年度 第2回 浜松中部学園運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年7月26日（火） 14時00分から15時30分まで
- 2 開催場所 浜松中部学園 会議室
- 3 出席委員 齋藤 正、村井 秀行、藤野 直也、三浦 一哲
神村 佳宏、木村 勝、河合 信人、成瀬 仁代
大石 将和、鳥居 浩幸
- 4 欠席委員 岡本 武士
- 5 学校支援コーディネーター 櫻井 康人
- 6 学 校 鈴木 伯（校長）、今明 薫（教頭）、袴田 暁広（教頭）
竹田 良子（主幹教諭）、井上 佐矢子（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
 - (1) 会長あいさつ
 - (2) 校長あいさつ
 - (3) CS研修（DVD視聴）「学校運営協議会の円滑な進め方について」
 - (4) 第1回協議会議事録確認
 - (5) 議長選出
 - (6) 熟議内容
 - ① 特色ある学校づくり
 - ② 学校評価アンケートの項目の検討
- 10 会議録作成者 CSディレクター 井上 佐矢子
- 11 会議記録

司会から、委員総数11人のうち10人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 議長選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、齋藤委員から村井委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

(2) 会議内容について

① 特色ある学校づくり

議長の指示により、校長から、別紙資料に基づき特色ある学校づくりについての説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・キャリア教育の一環として“キッズチャレンジビジネス”で木工作品を作ってきたが、他のものを作っていくことはあるのか。デジタル化等時代に合ったものにしていくのはどうであろうか。(齋藤委員)
- ・両方必要である。デジタルも大切だが「ものづくり浜松」として「手で持てる品」も大切。衛生上難しいかもしれないが「食」もよいのでは。(大石委員)
- ・共同作業の多い木工作品は、人との関りが生まれる。デジタルは今の子供は自らやれる。家庭でもできるのでは。(村井委員)
- ・今はデジタルなくして進まない。プログラミング等がないとモノづくりができなくなってしまう。複合的な対応ができるとういのではないか。(齋藤委員)
- ・児童一人にタブレットがあるので、図面や3Dで作品をみることは可能。昔はみんな意見をもつけ合う、作業を分担するなどの経験を高めることはできたが、今は学校が設定しないとできない。実際の物を触って作成することが大切。(校長)
- ・実際に販売を見に行くと、子供たちは目を輝かせて声を出している。その場が大切。(成瀬委員)
- ・共同作業をして喜びを分かち合うのが“キッズ”の良さ。会社の形態を学び合うことが第一歩。木工製品を作るにあたりアイデアを出し合うのが第二歩。広告を作ったうやったら伝わるかが第三歩。販売、宣伝、呼び込み等を行って第四歩。このような経験から自分に何がむいているかを考える第一歩とし、将来の職業に興味をもってほしい。この過程の中でデジタルを上手に使う。木工製品であることで自然の素材に触れることができる。“キッズ”後、「どのような職業に興味をもったか」のアンケートをとったことがあったか。(三浦委員)
- ・実際の数学や経理、原価や計算等に触れることができているか。会社の運営に関わる実際の学びになっているか。(齋藤委員)
- ・ご指摘頂いたことを中等部のキャリア教育に生かしていきたい。(校長)
- ・木工製品を扱っている企業を見に行く等も取り入れてみても良いのでは。「ピアノ」はその代表格。それを見てもよいのでは。(齋藤委員)
- ・子供たちがやってきたことはプラス。自分たちで物を作り、形にしたことの自信。作った物を買ってほしいという熱意を感じる。幼い頃から積み重ねることが大切。中部学園での取り組みは将来に生きる。(藤野委員)
- ・簡単な収支計算をやっていると良い。(村井委員)
- ・リアルと学びのバランスが大切。“キッズ”だけでなく、「未来授業」としてリアルな学びへと進んでいる。(校長)
- ・「未来授業」では幅広い人材を集めるべき。それにより視野が広がる。(三浦委員)
- ・この学校は目の前に様々な学びの場があるので、それを上手に使ってほしい。(藤野委員)
- ・数学、理科を生徒があまり好きではないようだが、初等部から系統的に指導すること

はできないのか。4 - 2 - 3 制を使って系統的な学びができるように思う。(齋藤委員)

- ・小学校は専門的な教員が必ずしもいるわけではないが、すぐ横に専門的知識を持つ教員がいるので、すぐに聞き指導に生かすことができるのが強み。(校長)
- ・浜松中部学園の門には「中部小」「中部中」とある。義務教育学校のいいところを取り入れて、4 - 2 - 3 制、小、中の教員が力を合わせて、別のよさと義務教育学校のよさを合わせていると考えてよいのか。(村井委員)
- ・義務教育学校と小中一貫校は基本的に違う。義務教育学校の良さは本校に取り入れられていると感じている。(校長)

②学校評価アンケートの項目検討

袴田教頭から例年実施している学校評価アンケートについて説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・タブレット関係に関する%が高い。(村井委員)
- ・SF、MF「楽しかった」の割合が、学年が上がるに従い減っている。(齋藤委員)
- ・「挨拶」が低い。時代も変化してきた。(村井委員)
- ・アンケート項目も大切だが、「挨拶」ができる子供を育てる指導、SF、MFを楽しむような企画、運営が大切。(袴田教頭)
- ・回答が細かいと内容が明確でなくなる。三段階評価にするとよいのでは。「思う」「思わない」「どちらでもない」の三択の方が、評価が分かりやすい。(大石委員)
- ・「思わない」のなら、どういうところが思わないかを書かせる方がよいのでは。(鳥居委員)
- ・心理的に書くのが面倒等の理由から「思わない」の選択が少なくなるかもしれないが、知りたいところではある。(大石委員)
- ・「思う」「やや思う」は、「思う」でよい。(成瀬委員)
- ・まとめるときは、「思う」「やや思う」が一つになり、「思わない」「やや思わない」が一つになるのがよいのではないか。(村井委員)
- ・検討します。(校長)

その他報告事項等

司会から、次回会議は、12月5日(月)以降で13:30～授業の様子を見て頂いた後の開催を検討している旨の報告があった。